



人吉一中 学校だより

Asazakura

校訓

理想は高く
心清らに

令和5年2月3日発行

本校の教育目標

自らに誇りを持ち、主体的に学び、考え、行動する生徒の育成

3学期が始まってあっという間に2月になりました。昨年度から県立高校入試は、コロナウイルス感染症によって入試を受けられない場合を考慮して、追試験が設けられています。そのため、昨年から入試の日程が10日ほど前倒しでおこなわれています。

例年、2月のはじめに行われる前期選抜試験は1月24日に終わりました。私立高校の入試も、矢継ぎ早に行われているところです。公立高校の後期選抜は2月の21日・22日に行われ、合格発表は3月6日に行われます。受験生の3年生にとっては、まさに勝負の2月ということになります。

3年生が自分が望むとおりの進路をつかみ、希望を持って新しいステージに踏み出せるよう、学校では入試に向けて、また、卒業に向けての準備を進めています。「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」という言葉があります。受験勉強は合格への不安との格闘の日々でもあります。その戦いの先にはきっと温かな春の日差しが待っています。新しい場所でみんなの力をさらに力を発揮できるよう、しっかりと根を張る充実した2月にしたいと思っています。

「しつけ」は「しつけ」をいふ

「先生の前でしか、ちゃんとしません。これじゃあ、教育の意味はないんじゃないですか?」「こんな記事を目にしました。なるほど、一理あります。ある人の前ではきちんとして、そうではないと緊張が緩んでしまう。大人でもよくあることです。仕事場では、できていることが、職場を出ると、いい加減な感じになってしまふ。学校では挨拶したり、勉強したり、一生懸命しているように、学校を一步出ると挨拶もあまりできない。これでは「学校で習っても、先生の前だけでできて意味ないんじゃないか。」と意味なくなる気持ちも分かります。

しかし、「先生の前だけでもできる」ということは、わかまえてる。とも言えます。ちゃんとしなくてはいけないことが分かっていて、学校や誰かの前ではできるんだけれども、そうでないとできない。気が抜けてしまふんですね。言い方を変えれば、「しっかりと身に付いていない」とも言えそうですね。そういうえば奈良の薬師寺の高田好胤さんは仏教を一言で言うと「見てござる」ということだと本に書いておられました。つまり、誰かに見られている(誰もいなくても仏様に見られている)と感じて、正しく生きなさいということだと私は読み取りました。

「しつけ」とは「しつけ」です。脱いだ靴はそろえる。寝そべったままものを食べない。服は脱ぎっぱなしにしない。式典の時や誰かが話しているときは静かにする。人に会ったら挨拶をする。人の悪口は言わない。など家庭や学校で様々なことをしつけています。家庭でしつけたことが、やがて家の外でもできるようになっていくのと同じように、学校でも、しつけたことが、少しずつ、外でもできるようになっていくことを狙って指導を続けています。

また、しつけは、何も子どもだけに限ったことではありません。「しつけ」するのは自分自身に対しても同じです。立ち居振る舞い、話し方、人との接し方などを含めた自分への「しつけ」はずっと続きます。昔は「人の振り見て我が振り直せ」と言われました。「子を叱ることは己を叱ること」とも言います。

学校も、子どもをよりよく育てたいという想いはご家庭と同じです。誰が見ていなくても自分を律することができるように、子どもたちの自立を見据えて、一緒に「しつけ」しましょう。

(参考 関根正明著『校長室つうしん』教育開発研究所)

一中ウオッチング



1月26日(木)2年生が、立志式の取組として絵手紙の作成に挑戦しました。地域の方を講師にお迎えして、線のひき方や文字の入れ方、色の塗り方などを教わった後、全員で書き始めました。できあがった作品はどれも味わい深く、子どもたちの気持ちがよく表れているものばかりでした。立志式は2月7日に予定されています。2年生の保護者の皆様、ぜひおいでください。

美術の授業では、現在3学年とも物作りを行っています。1年生は、身近なものを粘土で作成していて、中には本物と間違えるような物ができつつあります。2年生は写真にあるように、人間の形を様々なポーズで作っています。3年生は、卒業記念でしょうか、手彫りの印鑑を一生懸命磨き上げて作っています。物作りは、時間を忘れて集中できるところが魅力の一つだと思います。私もたまに、レザークラフトを楽しんでいます。



(マイクロビット)



1月18日(水)に、外部の講師をお招きして、3年部の干場先生が研究授業を行いました。「假定法過去」という構文を使って後輩にメッセージを書こうという授業でした。生徒たちは、文法を確認しながら「1年生のうちから宿題はちゃんとした方がいい」とか「しっかり友達と楽しんでください」など、思い思いのメッセージを英文にして発表していました。

上の写真は技術の授業です。左側の写真は「マイクロビット」というもので、生徒が作ったプログラム通りに動く道具です。音を鳴らしたり、動きを感知したり、方角を読み取ったり、簡単なサインを表したりできるものです。授業では、プログラムを活用してそれらの機能を活かしたものを作ろうと、様々なアイデアを出し合いながら、プログラムを考えていました。